『困難事例を解きほぐす』『多機関協働が動き出す』（現代書館）無料オンラインイベント

「困難事例」を解きほぐし、多機関協働を動かす

全方位型アセスメントから考える支援の行き詰まりの突破口

「何度もケース会議を開いているのに、状況が変わらない」
「多機関で連携しているはずなのに、支援がうまく進まない」
「本人の困りごとだけでなく、家族や支援者、
組織の側にも行き詰まりがある気がする……」

福祉の現場では、こうしたモヤモヤを抱えながら、日々の支援に向き合っているのではないでしょうか。
そもそも、私たちが「困難事例」と呼んでいるものは、何が困難なのでしょうか。
そして、その困難を解きほぐすために、支援者にはどのような見立てや関わりが求められるのでしょうか。

本イベントでは、『困難事例を解きほぐす』『多機関協働が動き出す』の2冊を手がかりに、
全方位型アセスメント（領域A～D）の考え方と、それを多機関協働の実践につなげる可能性を考えます。
前半は、伊藤さんによる全方位型アセスメントの解説と土屋さんによる多機関協働への応用についてのお話。
後半は竹端さんが進行役となり、ご参加者から寄せられる質問やモヤモヤについて、3人でじっくり考えます。
それぞれの現場の悩みや疑問を持ち寄り、対話しながら学びを深める90分です。

日時 2026年12月18日(金) 13:00～14:30

開催方式 Zoom（オンライン・アーカイブ配信あり）

参加費 無料

登壇



伊藤 健次 氏
山梨県立大学
人間福祉学部・
福祉コミュニティ学科
教授



土屋 幸己 氏
認定社会福祉士。
一般社団法人
コミュニティーネット
ハピネス代表理事



竹端 寛 氏
（司会・進行）
兵庫県立大学
環境人間学部 教授

対象 重層的支援体制整備事業に関わる自治体職員、社会福祉協議会職員、地域包括支援センター職員、社会福祉士・精神保健福祉士をはじめ、複合的な生活課題への支援や多機関協働に関心のある皆さま





事前にこちらの2冊をお読みいただくと、
より理解が深まります。
書籍の購入は参加条件ではありません。
（ご関心のある方は、
書籍付チケットもございます）

お申込みはこちら ≫

https://x.gd/2ivWc

【お問い合わせ】現代書館　重留遥
shigetome@gendaishokan.co.jp